

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 教育補佐を4名配置する。	1. 指標 : 教務補佐4名に対する採用率 評価基準 : 4名採用した…評価A、3名採用した…評価B、2名採用した…評価C、1名以下の採用…評価D	B			
2. 文部科学省等の外部資金に10件以上申請する。	2. 指標 : 文部科学省等の外部資金の申請件数 評価基準 : 10件以上…評価A、9～8件…評価B、7～6件…評価C、5件以下…評価D	B			

☆

2011年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
	→				
	→				

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
小項目9.0.4	(説明) 1. 講義室として約300名収容可能な教室 (339.4㎡) を1部屋、約100名収容可能な教室 (121.5㎡) を4部屋、また少人数の授業、言語教育、ゼミナールのための小教室 (演習室) としては、約35名から約50名を収容可能な教室 (81.0㎡、96.0㎡) を10室、外国語教育とコンピュータ演習の2つの機能をもつPC教室 (96.0㎡)、国際学部専用施設に2部屋、留学支援・学習室 (96.0㎡) を2室、学生自習室 (48㎡) を設置した。 2. 個人研究室は専任教員1人につき1室 (24.0㎡) 28部屋、言語教育科目担当の専任講師 (英語8人、中国語2人、日本語2人) のための言語教育共同研究室 (144.0㎡)、教材準備室 (48.0㎡) と、兼任講師のための講師控室 (48㎡)、図書資料室 (144.0㎡) を設置した。 3. 図書資料の整備、英語、情報機器管理などの教育補助業務を担うため、2教務補佐を、2010年度は3名配置した。
☆	その他 2010年度科学研究費等申請件数は、新規6件、継続3件、計9件であった。

《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【国際学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	/	/	/	0	0	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	/	/	/	3	4	
		授業補佐	人	/	/	/	0	0	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	/	/	/	11.6	11.2	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	/	/	/	8.0	8.2	
		講師	時間	/	/	/	18.2	17.0	
		助教	時間	/	/	/	-	-	

(その他の指標データ)

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

↓

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○外部資金の確保に明確な目標を掲げて努力していることは評価できます。

【学内委員】

○専任教員の担当授業時間数はどのように評価されるのでしょうか。

○施設の状況は詳細に説明されていますが、それが適正か否かについて触れられていません。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○専任教員の担当授業時間数については、文部科学省に提出した届出どおり、学部の教育研究上の理念・目的に即したカリキュラムを実現するために適切な担当授業時間数であった。

★○施設の状況についても、学部の教育研究上の理念・目的に即したカリキュラム、教員組織、入試、海外留学、図書整備等を実現するために適切であった。